

# 高蔵寺NTの未来

## みんなので考えよう



入居開始から50年を迎えた高蔵寺ニュータウンが培った資産と未来について考える書籍「春日井市で

### 春日井市やUR、管理会社 入居開始50年記念し書籍出版

春日井市の高蔵寺ニュータウン（NT）が昨年5月、入居開始から50年を迎えたことを記念し、春日井市と都市再生機構（UR）中部支社、NT内の交流施設を管理運営する高蔵寺まちづくり会社が協力し、書籍「ニュータウンの計画資産と未来のまちづくり 高蔵寺ニュータウンの50年に学ぶ」を出版した。（丸山耀平）

書籍は新書判二百八頁。著者は、二〇一三年に春日井市の市政アドバイザーとなり、NTのまちづくりに関わっている中部大工学部の服部敦教授（全）。

NTの五十年の歩みを振り返り、今後の半世紀をどうしていくべきかを提案している。書籍は三つの章で構成。

一章は、「ニュータウンのいまの姿と50年間」と題し、服部さんが歩いて探ったまちの実情と課題をまとめた。

第二章は「マスタープランが描いた未来」。一九六一年から六三年に作られた高蔵寺NTのマスタープラン（基本計画）を読み解き、先人たちの知恵や残された課題を伝える。

三章は、「リ・ニュータウン計画の目指す未来」。服部さんらが、マスタープランを受け継いで練り直した「リ・ニュータウン計画」を紹介し、未来像を描いている。

服部さんは「高蔵寺の将来のまちづくりの担い手や、昔から住んでいる高齢者の方に読んでもらいたい。また、郊外の住宅地におけるヒントがたくさんあると思うので、全国の人に読んで参考にしてもらいたい」と話す。

書籍は千二百円（税抜き）。二千部を発行し、千五百部を、NT内の交流施設「グルッポふじどう」三階にある高蔵寺まちづくり会社や書店で販売する。高蔵寺まちづくり会社 〇五68（37）49222